上田裕一先生旭日双光章受章祝賀会
新・旧琉球大学医学部長激励会

常任理事　照屋　勉

平成29年5月31日（水）PM7：30よりANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー（彩海の間）において、『もとぶ野毛病院理事長:上田裕一（うえだやすいち）先生:「旭日双光章」～受章祝賀会』、『前「琉球大学医学部長」:分子・細胞生理学講座教授：松下正之（まつしたまさゆき）先生、新「琉球大学医学部長」：人体解剖学講座教授：石田肇（いしだはじめ）先生～両先生の激励会』が盛大に執り行われました。まず、沖縄県医師会長：安里哲好先生にご挨拶を頂きました。続いて、北部地区医師会長：上地博之先生に、この度栄えある章を受章されました上田裕一先生のご業績を披露して頂きました。ご来賓を代表して、沖縄県保健医療部部長:砂川靖様にご祝辞を頂戴いたしました。記念品・花束贈呈の後、3名の先生方に、感慨深い思い出話や沖縄県の将来を見据えた抱負・提言などをお話し頂きました。明快なコメントを頂き本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます！

そして、乾杯のご発声は、いつも羨ましいほどお元気な沖縄県医師会代議員会議長の長嶺信夫先生にお願いいたしました。月末のウィークデーにもかかわらず、大勢の先生方にご参集頂き、大盛会な「祝賀会・激励会」を恙なく進行することができました。ご協力頂き心より感謝申し上げます！

挨　拶

安里哲好沖縄県医師会会長

本日ここに、上田裕一先生旭日双光章受章祝賀会並びに新・旧琉球大学医学部長激励会を開催いたしましたところ、多数の皆様にご出席頂き、厚くお礼申し上げます。

上田先生のご業績は後程詳しくご披露されますが、先生は日々の多忙な診療に従事する傍ら、地区医師会、沖縄県医師会役員として長年に亘り、会の発展並びに県民の医療・保健・福祉の向上に尽力されたご功績により、栄誉ある章を受章されております。

先生の永年のご労苦に対し沖縄県医師会を代表して深甚なる敬意と謝意を表する次第であります。

また、皆様ご高承のとおり、琉球大学医学部では、この度、松下正之医学部長が退任され、新医学部長に石田肇先生が就任されております。

本県における琉球大学医学部の役割は非常に大きく、今日に至るまで地域医療を担う人材育成にご尽力いただいております。

この度、医学部長をご退任されました松下先生におかれましては、医学教育のグローバル化を目指し、海外大学との提携および医学教育の国際認証に向けた取り組みを行ってこられました。また、国際医療拠点における医学部及び医学部附属病院の移転に関しての基本計画を作成されました。

ここに改めて松下先生のこれまでのご苦労に対し、衷心より深甚なる敬意と感謝の意を表するものであります。

また、この度、医学部長になられた石田肇先生におかれましては、平成10年に琉球大学医学部解剖学第一講座学講座の教授に就任、今年4月に琉球大学医学部 医学部長・医学研究科長に就任され、今後は強力なリーダーシップを発揮して頂き、医学研究並びに人材育成にご尽力いただけるものとご期待申しあげます。

さて、現在、我が国において少子高齢化が急速に進展する中、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けた地域医療構想が昨年度策定されました。

今年は、平成30年度よりスタートする第7次保健医療計画の改定作業に入ることになり、5疾病5事業、在宅医療における医療連携体制の構築が進められます。

これらを進めるにあたっては、地域の実情を充分に反映し、適切な医療連携を構築することができるものでなければならず、沖縄県医師会は主導的役割を果たし、より良い医療提供システムづくりに尽力して参る所存であります。

上田先生、松下先生、石田先生におかれましても、なにとぞ今後ともその卓越したご見識によるご指導、ご助言を賜り、県医師会の会務運営並びに県民が希求する安心・安全な医療体制の構築にお力添え下さいますようお願い申し上げる次第であります。

結びに、先生方の今後益々のご健勝とご多幸を祈念して私の挨拶とさせて頂きます。

業績紹介

上地博之北部地区医師会長

この度の上田裕一先生旭日双光章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和41年東京大学医学部をご卒業後、東京都立墨東病院脳神経外科に勤務された後、東京大学助手、茨城県立中央病院、三井記念病院、獨協医科大学助教授、文部省統計数理研究所等を経て、昭和59年に本部町に野毛クリニックを開設されました。昭和63年6月にもとぶ野毛病院へ移行、さらに平成7年11月には医療法人もとぶ野毛病院に改組し現在に至るまでの33年の永きに亘り、地域医療、保健、福祉の向上にご尽力されました。

また、先生は、多忙な日常診療にも関わらず、平成2年4月から平成4年3月までの2年間を北部地区医師会理事、平成2年4月から平成10年3月までの8年間を沖縄県医師会理事、平成10年4月から平成15年3月までの5年間常任理事を務め、13年もの永きに亘り医師会の活動発展に多大なる功績を残されました。

先生は琉球大学工学部 電子情報工学科 非常

勤講師も勤めていた関係上、県医師会理事就任当初より、医療情報システム担当理事を務め、地区医師会や会員システム構築の援助並びに講習会を開催するなど、より効果的な情報システム構築に向けてご尽力されました。

特に、平成９年３月他府県に先駆けて、全国の医師会では２番目となる医療情報システム「メディネット大樹おきなわ」のホームページを立ち上げる等、その功績は誠に顕著でありました。更に、平成９年４月から平成14年３月までの５年間日本医師会医療情報検討委員会、ネットワーク推進委員会委員として都道府県医師会の医療情報システム構築に大きく貢献されました。

また、学術団体として、環境問題にも積極的に関与する必要があるとし、自らその担当理事をかって出て、県の環境審議会に参画すると共に、公害審査会会長を務める等、幅広い活動を展開し本県の環境改善並びに本会の事業発展に大きく貢献されました。

北部地区医師会では理事を務め、北部看護学校の設立に尽力し、設立後は同校の運営委員会委員長や委員長代行として同行の運営に尽力し、看護師不足の改善に貢献されました。

以上のような上田先生のこれまでの長年に亘るご功績が認められ、この度、旭日双光章受章の栄に浴されております。

上田先生のこれまでの御苦労に対し、改めて深い敬意と感謝の意を表すると共に、今後とも御健勝でご活躍されん事を祈念いたしまして、簡単ではございますが、業績紹介を終わります。

この度の受章、誠におめでとうございます。

来賓祝辞

砂川靖沖縄県保健医療部部長

上田裕一先生旭日双光章受章祝賀会及び新・旧琉球大学医学部長激励会の合同開催にあたり、御挨拶を申し上げます。

上田先生、この度の栄えある受章、誠におめでとうございます。

上田先生におかれましては、長年、北部地区の地域医療に従事されるとともに、全国の医師会で２番目となる医療情報システムを立ち上げる等、医師会活動を通じて、本県の保健、医療の向上に多大な御尽力をされました。

県民を代表し、深く敬意を表するとともに、心から感謝を申し上げたいと思います。

上田先生におかれましては、叙勲を機に、これまで以上に後進の指導にあたっていただきたいと思います。

また、松下正之先生におかれましては、医学部長在任中は、先端医学研究センターの立ち上げに御尽力されたほか、西普天間地区に国際医療拠点を形成するという壮大なプロジェクトに参画され、その実現に大いに貢献したものと考えております。

今後とも、松下先生の高い見識と豊かな経験を生かされ、本県の医療行政の発展に、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

そして、石田肇先生、このたびの医学部長への御就任、誠におめでとうございます。

琉球大学医学部及び同附属病院につきましては、平成36年度末までに西普天間住宅地区へ移転する計画がありますが、医学部及び附属病院の移転は、沖縄の国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点の中核をなす事業であります。

石田先生におかれましては、健康医療拠点の実現に向け御尽力いただくとともに、あわせて医師の養成・確保等、本県の地域医療の水準の向上に引き続き御協力を賜りますよう、お願いいたします。

さて、沖縄県では、「沖縄21世紀ビジョン基本計画」で揚げる「心豊かで、安全、安心に暮らせる島」の実現を目指し、各種施策の推進に取り組んでおります。

県民の医療・保健・福祉の充実に当たっては、これまでも沖縄県医師会をはじめ、県内各医療

機関の皆様からの御協力をいただいてきたところでありますが、医療提供体制の質の向上に向けて、今後とも県医師会の御支援、御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、上田先生、松下先生、石田先生の益々の御活躍と、沖縄県医師会の御発展並びに御列席の皆様の御健勝と御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

謝　辞

上田裕一 先生

本日は、私事のために祝賀会を催していただいた安里哲好会長・役員の方々、事務局の皆さんのご尽力に、そして、ご出席くださった会員の方がたに感謝申し上げます。

さらに砂川靖沖縄県保健医療部長にはご丁寧な祝辞を有難うございます。

そして上地博之北部地区医師会長、過分なご紹介ありがとうございます。

15年以上前のことが昨日のように思いだされます。

ラッキーだったのは経験豊かな当時の比嘉国郎会長のもとで活動できたことです。会長の守備範囲が広く、開かれた医師会を目指していました。宮城英雅副会長担当で医療関係者団体をまとめるいわゆる『なごみ会』の構築、交通遺児募金『ヘルシーハート・チャリーティー写真展』、福祉団体への寄付目的の『愛・ふれあいのメディカルフェスティバル』、などなどでにぎやかで楽しかったです。フェスティバルの初回では玉城信光現副会長とともに3時間に渡る司会を受け持つことになりました。

医療情報担当役員として呼ばれたのですが、地域保健も受け持たされました。初めの仕事は便潜血検査の郵送法による大腸がん検診の仕組みづくりです。このときは稲福全三副会長でした。私の専門は脳神経外科です。脳外（カミ）は専門でも大腸（シモ）はまったくのド素人です。なんでね～、との思いでした。注腸バリウム検査から大腸内視鏡検査への移行時期でしたが、琉球大学の金城福則助教授の助けを借りながら何とか構築できました。その流れで翌年県の成人病検診大腸がん部会発足にも参加できました。

当時には環境問題が騒がれていた時期で医師会として県関係の審議会の推薦も担当役員を配置し幅広い医師会活動を行っておりました。私が環境審議会、公害審査会に参画出来、まがりなりにも公害審査会・会長を務められたのもその一環でした。

医療情報システム領域でも、1995年4月に会長の英断がありました。当時、Drには潜在能力はあるのですが、キーボードアレルギーと言われるぐらい毛嫌いされた時期にインターネット活用の『メディネット大樹おきなわ』立ち上げの決断をいただきました。ワープロ専用機の時代です。ネット時代の入り口でもありました。あまり詳しい説明は却って混乱するので『キャビネット版の写真が転送・閲覧ができる』システムですと理事会でも説明させていただきました。九州ブロックでの関連事業をも兼ね1996年3月にスタートしました。他ブロックに先がけての構築が評価され日本医師会のシステム研究・情報化検討委員会委員に推挙いただきました。

当時医療福祉センター内の狭い医師会事務局に県医師会用の独自サーバを持つだけでも全国初仕事でその上、事務局のITネットワーク化も計画に入れていたのでパソコンが入りきらない事態になってしまいました。幸い、ノート型のパソコンが出始めで何とか事務局員半数の台数のPCネットワーク構築で、翌年には事務局の努力で他府県に先駆けて職員全員PC－ITネットワークが完了しました。未来志向型事務局の功は大です。日医でもネットワーク推進委員会に舵を切ったのは2000年ですからその火付け役になった事業だったと自負しています。

思い出話に終始しては、本日の琉球大学医学部長激励会でもありますので申し訳ないです。本土から移住して沖縄県の医療に携わっている私からのお願いに近い思いを述べさせてください。

沖縄県医師会史でも第１巻「～祖国復帰まで」とか、第２巻「祖国復帰から～」となっていますが、本当に祖国でしょうか？医師会ですら祖国と思っているのに本土は冷たいですね。

祖国復帰時の要望として沖縄復帰対策要綱要請書（1971-03-11　琉球政府復帰対策県民会議議長安里源秀）に国立医療機関一般病床 1500 床規模の設置の要望が出されています。米軍統治下の不利益を取り除いてこそ祖国復帰です。復帰時の要望は実現していません。この要望一つとっても医療界は不完全な祖国復帰しかできていません。

歴史には“もし”はないですが、今度の琉球大学医学部・附属病院の移転に際してはこの要望書を考慮して立派な附属病院を開設していただきたいと希望します。

終わりに、皆様のご健勝を願い、お礼の言葉にさせていただきます。

本日は本当に有難うございました。

追記：乾杯の音頭を取っていただいた長嶺信夫議長は早くから禁煙対策に骨を折っていました。当時、禁煙担当はヘビースモカーだった私でした。私の胸ポケットの煙草を強くご注意を頂きました。

その結果報告です。すぐには止められず、ままよと九州ブロックの懇親会の席で唐突に、當山護那覇市医師会長とともに灰皿抜きを提案し実現できました。その後禁煙が定着したようです。一人ずつ説得し私を最後に 2002 年は県医師会理事全員の禁煙になりました。

松下正之先生

本日、沖縄県医師会安里会長を始め沖縄県医師会の皆様に、この様な機会を設けて頂き誠にありがとうございます。

思い返せば４年前になりますが、石田医学部長が座っている所に私も座っており、これから頑張らなければとの思いでいました。その後の懇親会で皆様と話したことを昨日のように思い出します。

あれから、４年がたち任期を満了する事ができました。様々な事がありました。道半ばのものもあれば、完成できたものもあります。本日は、うまくいった方の話題を紹介させて頂ければと思います。

１点目は、私が医学部長に就任した時は石田先生に医学科長をお願いさせていただきました。国立大学の医学部医学科は医学教育の重要な使命があります。当時、琉球大学は国家試験の合格率が低迷しており、同窓会の皆様からも、なんとかならないのかと言われていた所でした。教授会でも喧々諤々の議論をし、様々なカリキュラムの改革や総合試験の導入をする事によって徐々に国家試験の合格率も上がっていきました。石田先生に多大なご負担をおかけしました。

２点目は、沖縄県保健医療部のご支援になりますが、地域枠として離島・北部枠を設けようという働きを行いました。これは沖縄県のご支援のおかげで新たに枠を設ける事ができ、現在非常に好評のようで今後益々発展し、離島北部の医師不足の解消に繋がるのではと期待しています。

３点目は、グローバル教育です。全国の医学部医学科では、国際的な医療水準を保つために、医学教育のグローバルな質保証制度である分野別認証や評価を受けなければなりません。琉球大学医学部でも今年の 12 月に審査を受ける事になっています。その審査に対応する為のカリキュラムの改革を行ってきました。

教育も研究も国際連携が非常に重要です。特にアジアの大学との連携では、多くの大学とMOU協定を結ぶよう働きかけました。中でも台北医科大学とは連携が非常にうまくいっています。また、現在進行中でありますシンガポールに新しくできた南洋理工大学の医学部であるLKCとの連携を進めています。中国の上海交通大学などとも連携も進めてきているところです。

4点目ですが、先端医学研究センターを文科省の支援により立ち上げました。これは、基礎研究で見つかった色々なシーズンを臨床の場へ繋いでいくセンターになっています。先端医学研究センターは、多くの競争的資金の受け皿となっています。このセンターには再生医療分野がありまして、沖縄県の商工労働部、企業からのご支援で建設され、琉球大学医学部附属病院での再生医療を進めていく事ができるようになりました。研究も徐々に活発化して競争的資金も徐々に増えてきています。今後は、沖縄の特徴を生かした世界に誇れる研究を発信していく必要があります。

最後になりますが、琉球大学医学部、及び附属病院の西普天間への移転についてですが、移転の計画が立ち上がる時に沖縄県医師会にご相談に伺い、医師会幹部の方々から全面的に応援するので頑張りなさいと言って下さいました。その後、関係省庁との調整など紆余曲折がありましたが、西普天間での国際医療協議会が立ち上がり、今年の4月には報告書も完成いたしました。その過程で、琉球大学医学部、及び附属病院の移転に向けた基本計画も完成しました。平成36年末に竣工予定です。今後とも移転に向けて医師会の皆様のご支援を頂きたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりますが、沖縄県医師会皆様の益々のご発展とご健勝を祈念してご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

石田肇先生

平成29年4月1日付けで、琉球大学医学部長に就任いたしました。どうぞ、よろしくお願いいたします。専門は人体解剖学です。解剖学実習を担当しています。平成10年5月1日に、札幌医科大学から琉球大学医学部に赴任させていただいてから、医学科教務委員長、教育研究評議会評議員、医学科長ならびに副医学部長として、数々の医学部長の下、働いてまいりました。今回、医学部長になった感想としては、まずは、責任の重さを痛感しております。つまり、全国82医学部中で、琉球大学医学部をさらに発展させていかなくてはならないという責任があるからです。

研究面では、3月に日本解剖学会総会で特別講演をした時に、AMEDのプログラム・ディレクターの方から、沖縄県がいかに大事な地域であるか、興味を持って見ていると言われています。つまり、国内の疾患をターゲットとしたゲノム・臨床研究をどのような地域や住民を対象にして行うのが適切なのかを常に考えているということです。このように、沖縄の特性を生かした研究を進めることが大事であると思っています。

西普天間地区への移転ですが、医学部発展の最大要素と考えます。医学部構成員が一丸となって取り組んでゆきます。今年度から、実質的な基本設計に入ります。就任以来、本学の大城学長、須加原理事、福治理事、西田理事とも話をしております。ご存知のように、西普天間住宅地区における国際医療拠点の形成に関する協議会報告がまとまり、平成29年4月26日に公表されました。そこでは、「国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点」を目指すために、高度医療・研究機能の拡充、地域医療水準の向上、国際研究協力、医療人材育成が掲げ

られています。この達成のために、先端医学研究センターを中心として、研究の推進を図る必要がございます。平成 36 年度末に移転完了を目指すと基本計画に書き込みましたが、全ては、これからの努力次第と考えています。

人材育成ですが、学部教育では、地域枠の募集以来、沖縄県出身の学生の割合が 7 割ほどになって来ています。沖縄の学生さんはとても優しい性格なので、ともすると厖大な医学知識、技能の習得に耐えられなくなりそうになることもあります。そこは医学教育企画室などを中心に支えていきたいと思います。

県医師会の皆様には、各病院、また診療所実習などで、医学部教育、卒後教育では大変お世話になっております。また、沖縄バイオインフォメーションバンク構築のために、多数の方々には、ご協力をいただいております。ここに感謝申し上げます。先ほどの協議会報告でも申し上げましたが、沖縄県内の地域医療水準の向上が挙げられています。その達成のために、県医師会を始め、各地区の医師会とのより強い相互連携が必要と考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。

祝宴の様子